

年末年始の事故防止



少しの酒でも死亡事故に

ドライバーの皆さん、年末年始の酒でも死亡事故に。先月8日夜、石瀬管内で起こった交通事故。原因は暴走運転によるもので、ガードレール支柱に垂直に突きささったもの。幸い同乗者2名は軽症でした。(写真提供=巻警察署交通課)

危険な

飲酒運転の自己弁護

アルコールは

体内の機能を低下させる

- ①あまり酔っていないと思った
 - ②酔った勢いで
 - ③ひと休みして酔いがさめたと
思った
 - ④翌日の仕事に車が必要だから
 - ⑤今まで飲酒運転で捕まったこ
とがなかったから
- こうした言い訳をすること自体、アルコールの人体に与える影響

を理解していないといっている
でしょう。

酒を飲むと、体の働きには次
のような変化が見られます。

- 第一に、視覚の働きが鈍くな
り、視野が狭くなります。
- 第二に大脳の働きが低下して
判断力が鈍り、自制心も弱まっ
てきます。(酒を飲むと、運転
の腕がさえるというのは、アル
コールによって大脳が麻痺した
ために起こる錯覚で、運動機能
はふだんよりもずっと低下して
います)
- さらに、集中力が鈍ったり、
精神的にも不安定になるなど、
酒が人体に及ぼす影響は、車の
運転にとっては好ましくないも
のばかりです。

ビール一本で

危険度は二・五倍

酒を飲むと、認知・判断・実
行という運転に必要な能力がグ
ンと落ちます。このため、信号
や道路標識を見落としたり、歩
行者の発見が遅れたりします。
また、一時停止を無視したり、
肝心の運転操作も遅れがちにな
ってしまいます。

ドライバーの中には「酔わな
い程度の酒なら大丈夫」と、本
気で信じ込んでいる人もいます
うです。しかし、決して「大丈
夫」でないことは次のデータで
も明らかです。

ドイツの医学者フロイデンベ
ルグによる「血中アルコール濃

度と事故の危険度」の調査によ
ると(長山泰久著・ドライバー
の心理学)、ビール一本を飲ん
だ状態で車を運転した場合、ア
ルコールが体内に全くないとき
に比べて、死亡事故の危険度は
二・五倍に増えています。また、
死亡事故につながらなくても、
物を壊したり負傷したりする事
故も増えており、少しの酒でも
危険なことを物語っています。

そのほか、あまりお酒を飲み
すぎると、疲労や睡眠不足を招
き、翌日の運転にも支障をきた
します。当日、酒を飲んでいな
くても、体内に残っているアル
コールの量によっては、飲酒運
転とみなされ、厳しく処罰され
ることになります。

飲酒運転防止に思う

巻地区交通安全
協会和納支部長



竹内勝衛さん
(和6・53歳)

飲酒運転の追放が叫ばれて久
しい、またその飲酒運転防止に
各地域で懸命に努力運動が行わ
れているにもかかわらず、飲酒
運転が絶えないとは全く困った
ものです。地域により、まだま
だ「お茶がわりに一杯」の風習
が残っていて、こうした酒に対
する甘さをふりきれないところ
に問題があるように思います。



飲酒運転は モラルの問題

常に心身ともに万全の状態では
握る。ドライバーである以上、必ず守らな
ければならない基本的なモラルの一つです。
道路交通法は「何人も酒気を帯びて車両
等(自動車、原動機付自転車など)を運転
してはならない」と定めています。そうと
知りながら、酒を飲んで車を運転すること
は、最も恥ずべき行動と言えます。

飲酒運転は、ほかの犯罪に比
べて執行猶予が少なく、実刑、
厳罰主義がとられています。が、
飲酒運転で罰せられるのはドラ
イバーだけではありません。目

上の人などが、酒を飲んでい
る人に車の運転を強要すると処罰
されます。また、ドライバーに
酒を勧めるとも禁止されてい
ます。

飲酒運転をなくすためには、
家庭や職場、地域で、「飲んだ
ら乗らない、乗るなら飲まない、
飲ませない」という鉄則を確立
することです。もちろん、それ
らにも増して大切なのは「私は
絶対に飲酒運転はしない」とい
うドライバーの自覚であること
は、言うまでもありません。

巻警察署管内飲酒運転者数(10月31日現在) ※内は死者

町村	飲酒運転者		飲酒事故
	人数	免許取消者 人数	
巻町	45	19	2(1)
吉田町	24	10	1
岩室村	10	4	1(1)
湯東村	8	4	—
弥彦村	7	3	—
中之口村	7	2	—
西川町	6	3	2
計	107	45	6(2)

巻地区の飲酒事故(死者1人)については、今年6月17日、
越後七海シーサイドラインの間瀬本村地内で起きた暴走事
故によるものです。

飲酒運転を防止するには何より
も地域全体の交通安全意識を高
め、飲んだら乗らない、乗る
なら飲まない、飲ませないの
三つの運動を徹底して啓もうし
根気強く続けていくことが大切
だと思います。やがて年末年始
酒を飲む機会が多くなります。
それだけに飲酒運転や酒気帯び
運転の危険性が、だれにでもあ
りますが、「この程度なら大丈
夫」という、危険な自己判断は
せず、飲酒運転は絶対にしな
いと自覚し、安全運転を心掛け
ほしいものです。